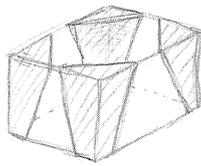


エ リ ン ギ

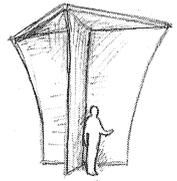
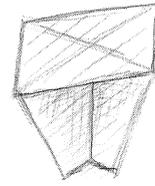
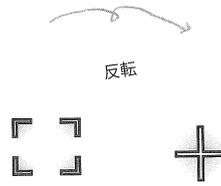
演奏、似顔絵、手品、屋台、美術展示

様々なパフォーマンスが散在し
 あるパフォーマンスを行う者
 別のパフォーマンスを行う者
 あるパフォーマンスを見る者
 別のパフォーマンスを見る者
 それらが互いに影響しあって
 常にその時固有のパフォーマンスが生まれ
 様相を変えていくパフォーマンスの場を作る

中心から外に向かう四つの隅をもつ、この形を用いる



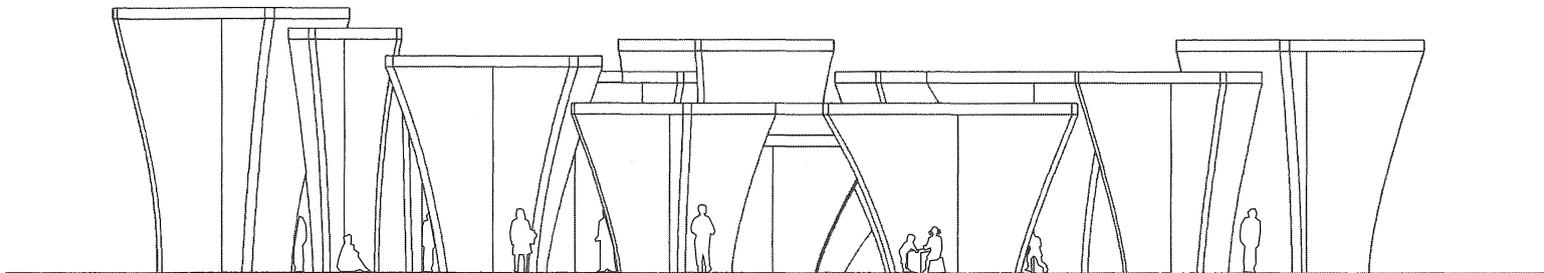
四角い空間には内側に向かう四つの隅がある



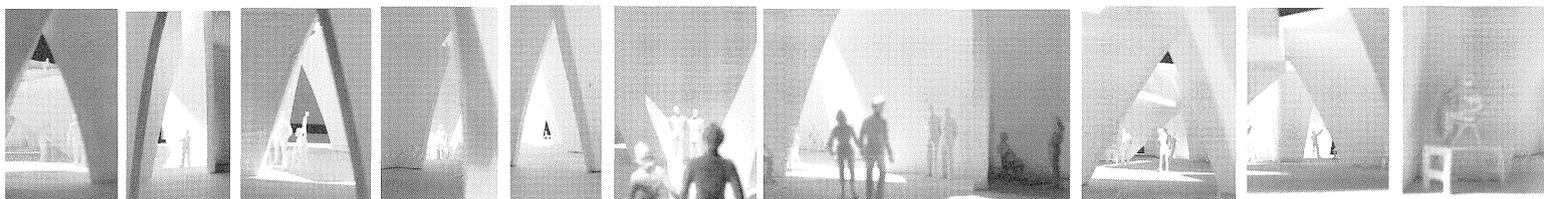
隅から外側に向かってパフォーマンスを行う

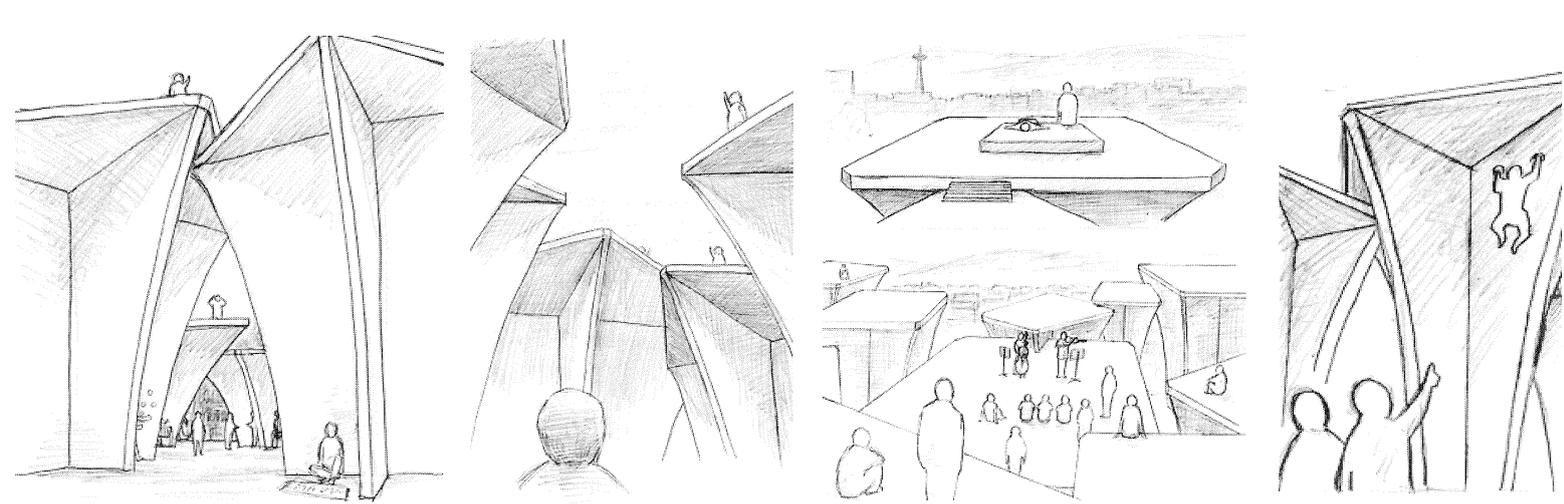


清水寺参道 敷地図 1/4285



南立面図 1/275





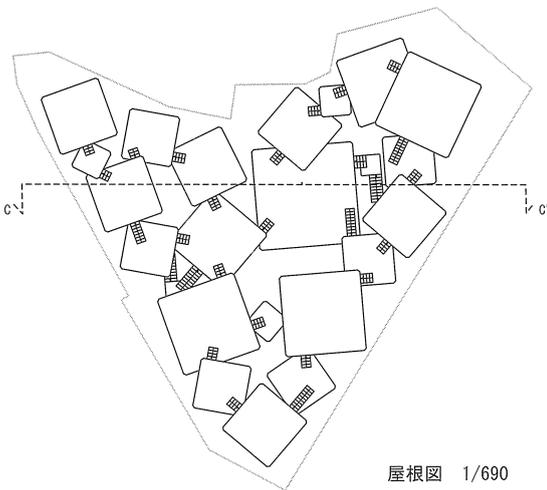
壁のふちを曲線にして
その間から奥の空間に視線が抜けるようにする



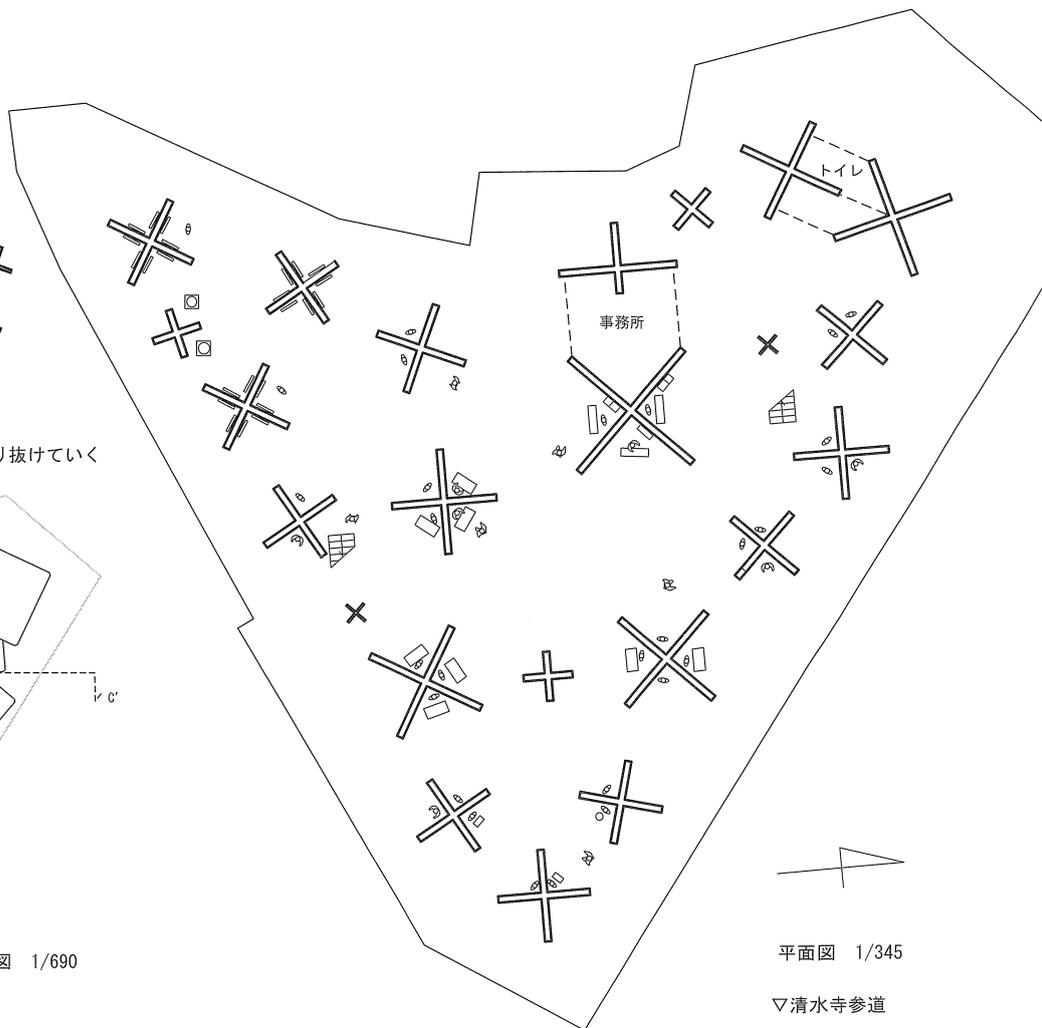
複数の隅が集まって場を作る



間を通り抜けていく



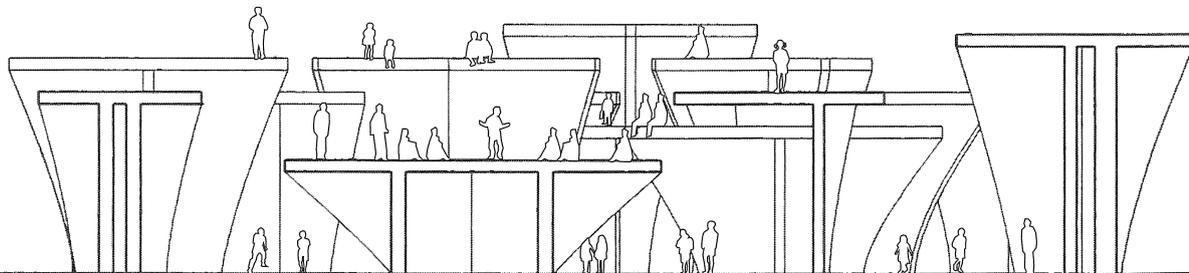
屋根図 1/690



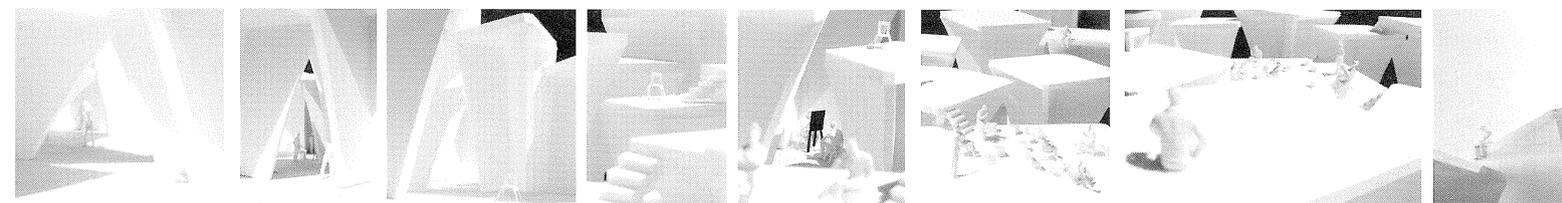
平面図 1/345

▽清水寺参道

屋根のは中心がくぼんだ劇場型のパフォーマンスの場となっている



断面図 C-C' 1/250



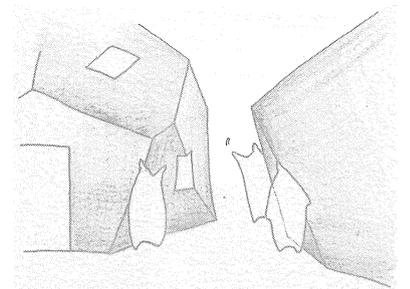
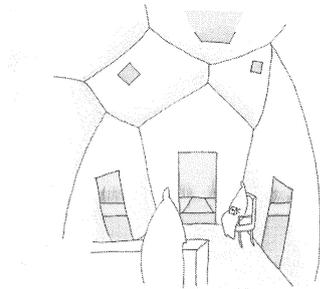


パフォーマンスのある空間

パフォーマンスのある空間とは、人がいる空間。
なんでもないような日常を、枠で切り取っていきくと、パフォーマンスが見え出す。

PROGRAM・・・ゲストハウス

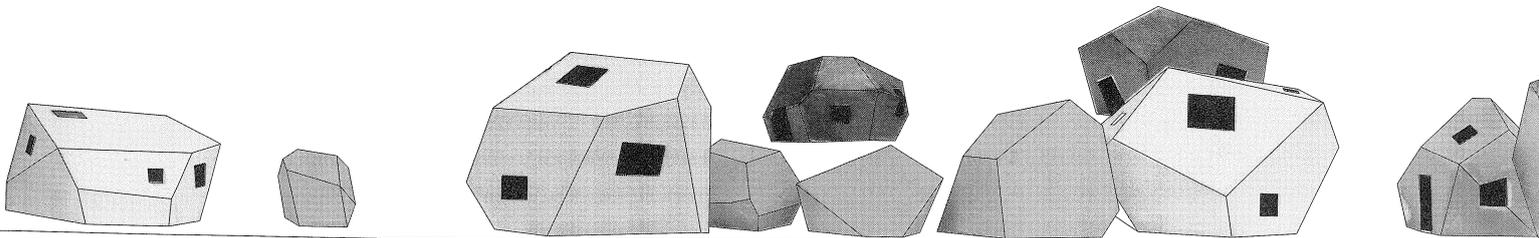
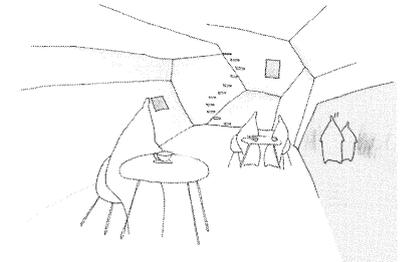
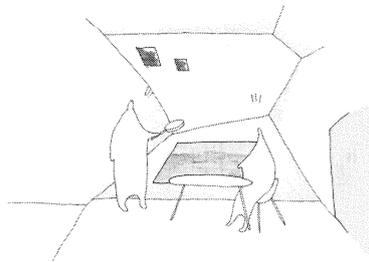
ゲストハウス (guest house) は、比較的安価な料金で利用出来る宿泊施設。
ドミトリー形式の客室がメインで、施設の多くも共用である。
自然と、コミュニティーができる。
旅の情報交換・故郷の話
旅独特の、人との距離感。

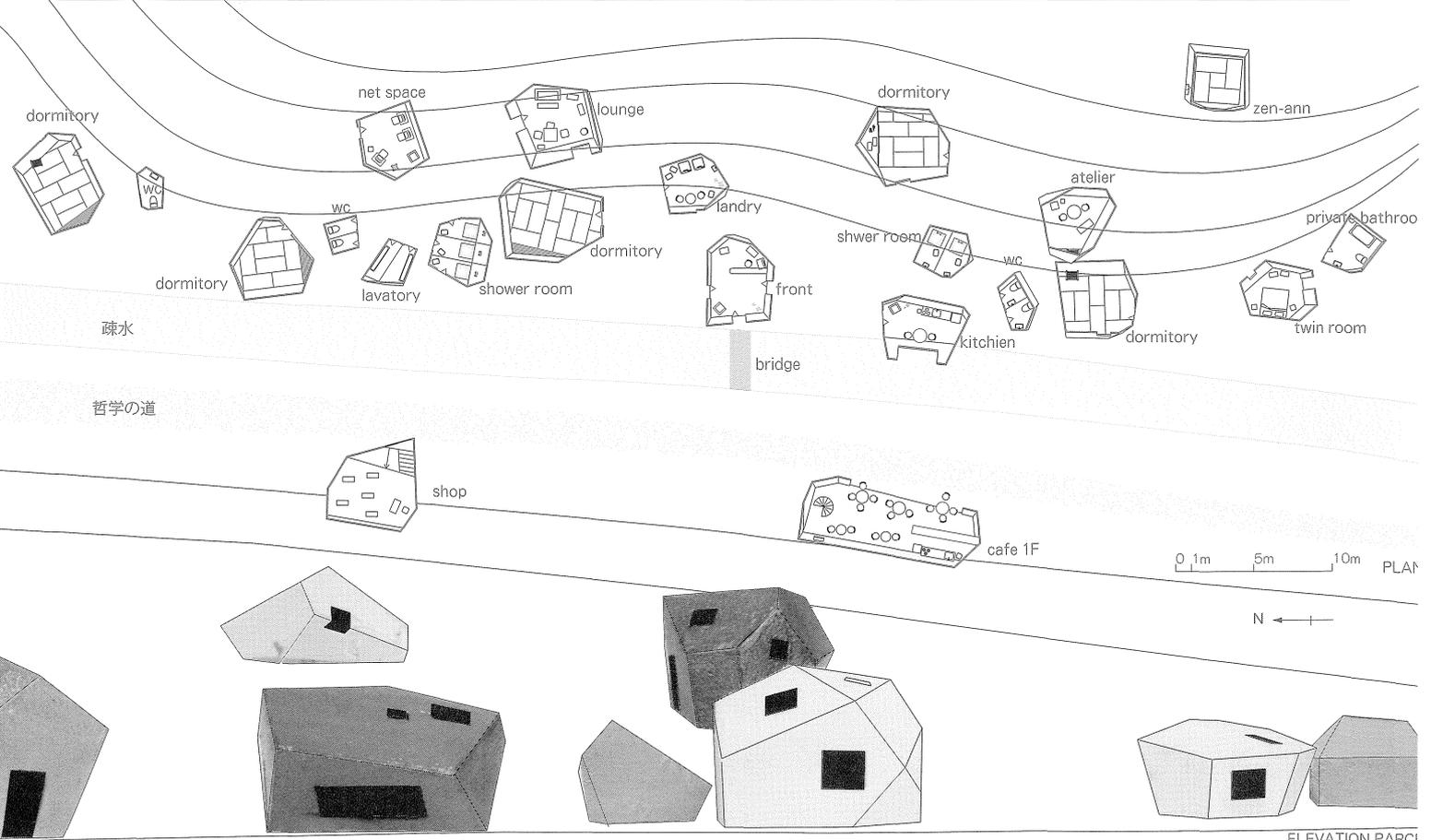


昼の顔
人の気配がチラチラ
宿泊客は観光に出かけ、人の密度が低い
木々の間にごろごろした結晶が散らばる
彫刻のような建築



夜の顔
暖かい光がキラキラ
川の対岸から不思議な明かりがもれる
結晶がキラキラ輝いている
帰ってきた宿泊客が薄あかりの中で動き回っている







1600ミリメートル×1200ミリメートルの壁と格闘した1ヶ月

木組みとベニヤでつくられた 1600×1200

たった5分も休憩なしでは運べない重さと
絵を描いていると全く向こうが見えない大きさの 1600×1200

気配が逃げる隙間を備えているかと思えば
ひと一人を覆い隠す包容力を
ときには全く姿を消す軽快さを備えている 1600×1200

2007年6月 哲学の道

1600×1200を振り回し
1600×1200に振り回された 300日の記録

世界は全く僕の思い通りに動かなかった せつない記憶の記録

「よく晴れた日の水たまり」

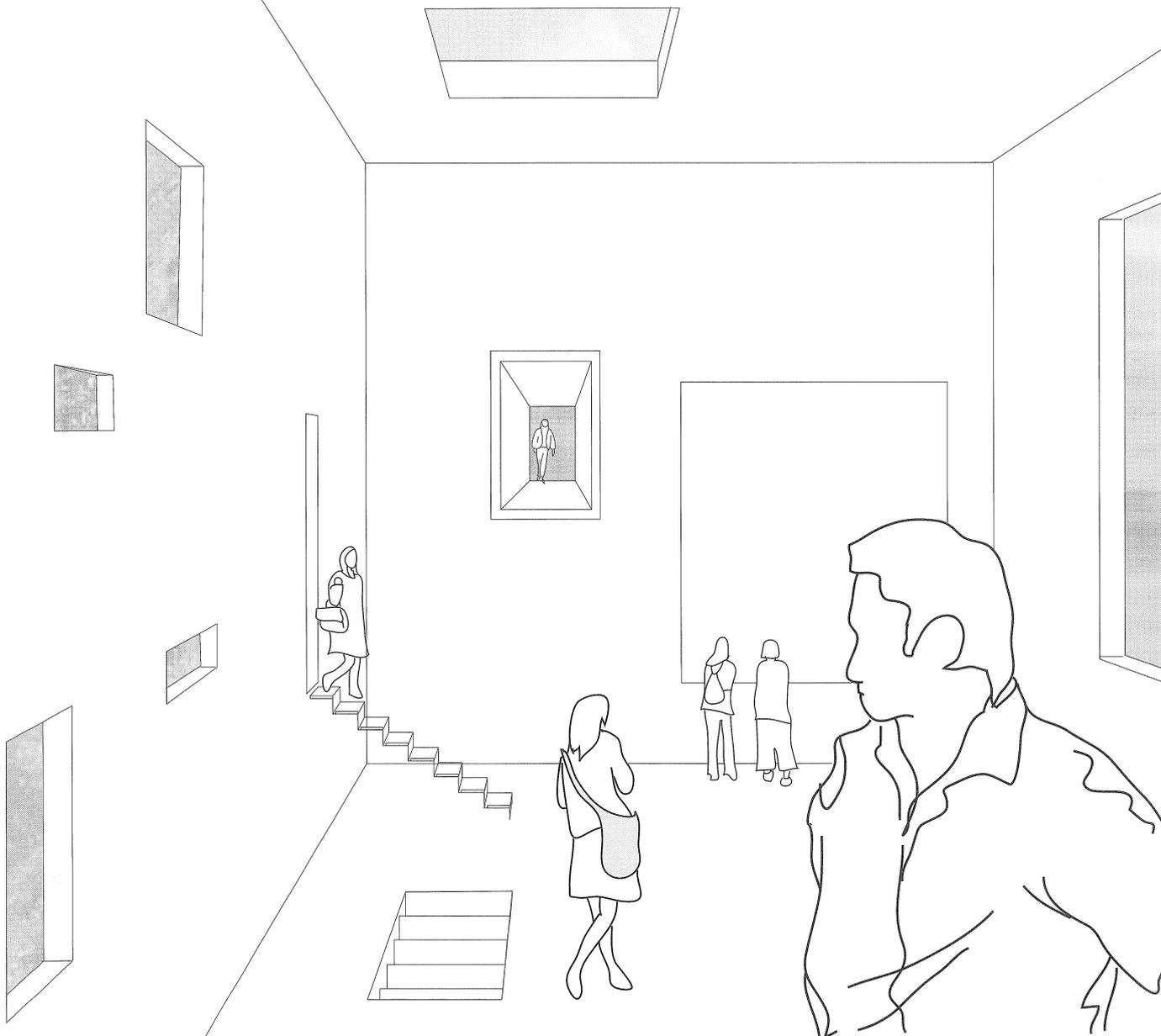
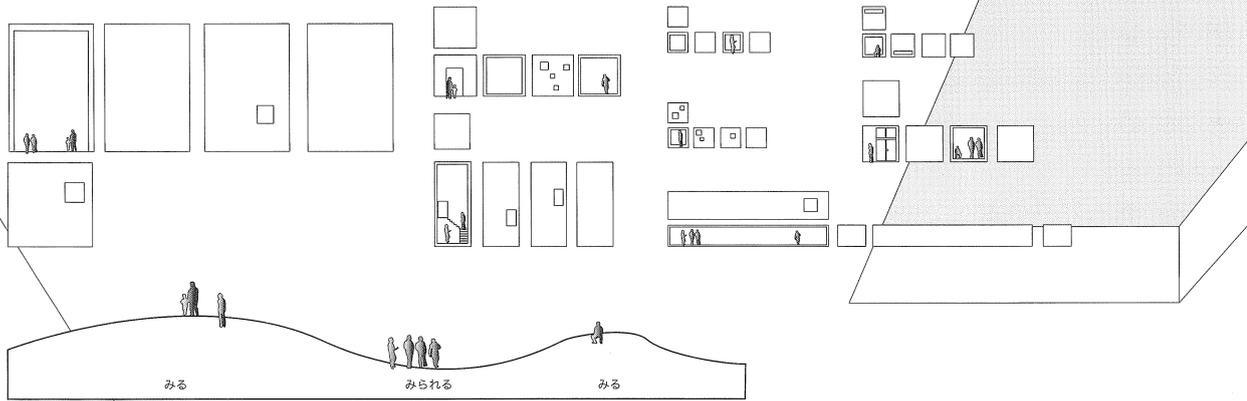


ハコ

<パフォーマンスとは>
広義のコミュニケーションのいち形態で、身体表現を伴うもの。

歴史都市 京都。現在は観光で栄えるこの街は、過去の時間も含めた「京都」という舞台を楽しむ為に、世界中から多くの人々が訪れる。京都の街の賑わいは、「訪れる人」と「もてなす人」、舞台となる「土地」の作り出す壮大なパフォーマンスの様だ。

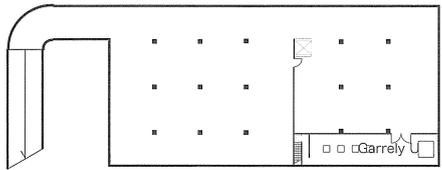
このようなパフォーマンスの場の一、参道。超越的な存在に「見られている」と意識させられるこの場所に、さらに意識的に「見る一見られる」関係を取りこんだアートスペースを作る。



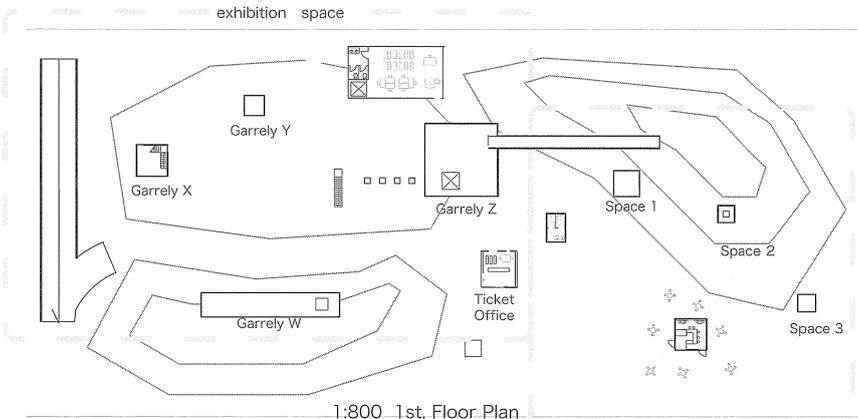
「キファク」は「プロセニウム」。

「キファク」は、高い位置の人は「見る」、存在、低い位置の人は「見られる」存在。起伏によってゆるやかにふるたつの存在が遷移する。

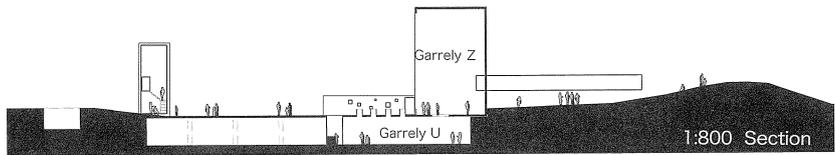
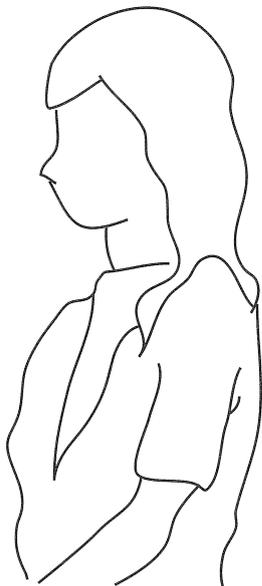
「プロセニウム」は、展示空間や外部空間を横縁のように切り取る。



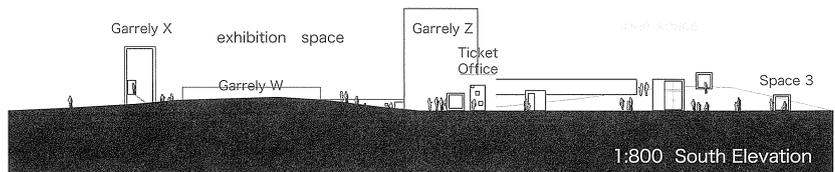
1:800 Basement Floor Plan



1:800 1st. Floor Plan



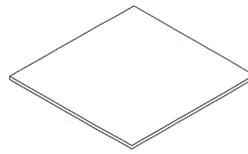
1:800 Section



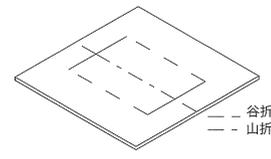
1:800 South Elevation

いちまいのいた

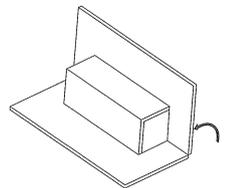
一枚の板に切れ目をつける。この板を折り曲げると切れ目に応じて様々な凹凸が生じる。このいちまいの板に生じる凹凸によって空間を構成した。地面に置かれた大きな板は、そのままでは単なる平面でしかないが、切れ目をいれ折り曲げることで内と外が生まれ、そこが開口となる。切れ目からは光がはいり、風が抜け折れ曲がった板は人を包む皮膜となり空間を生む。



一枚の板



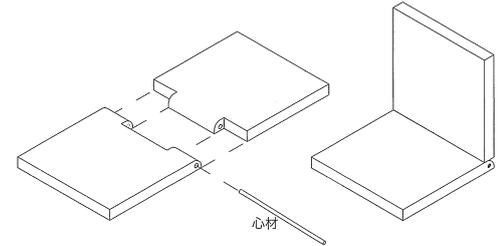
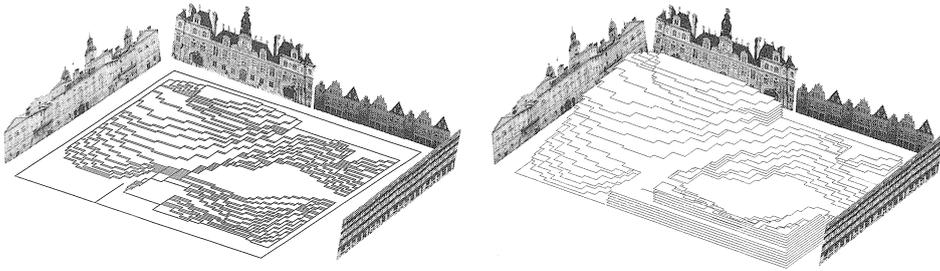
切り込みと折り目を入れる



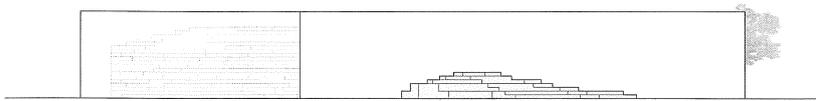
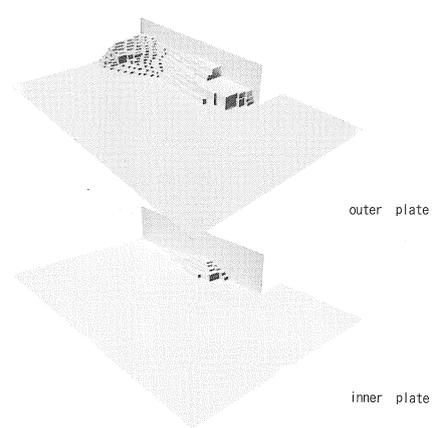
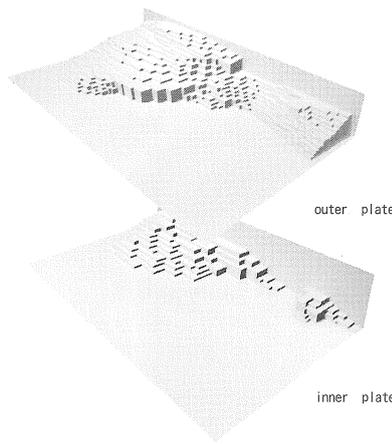
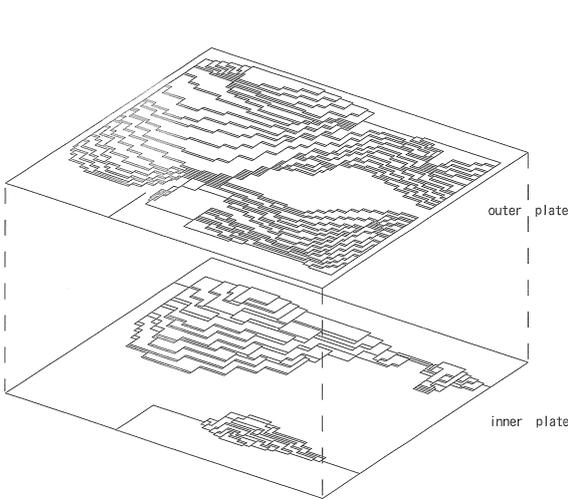
空間が立ち上がる

広場 切れ目のついた大きなプレートを都市の広場に設置する。広場で催しがあるときには丘のような地形が現れる。

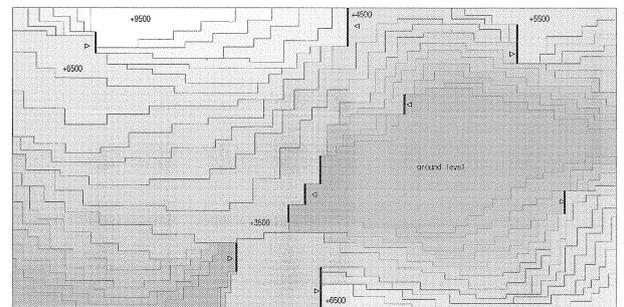
材の接合部 接合部には心材が入り、角は円状に削られる。



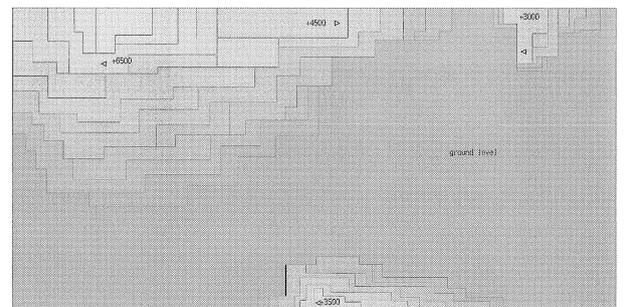
プレートの重なり 切れ目と折り目のついたプレートを二枚重ねる。光や風が通る半屋外空間に外部との様々な距離感が生まれる。



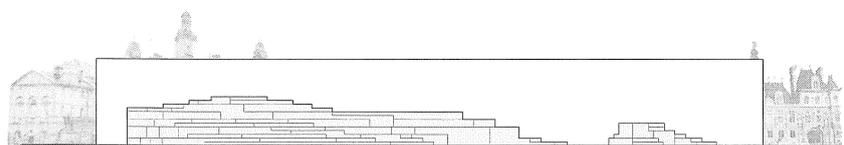
elevation 1/200



outer plate plan 1/20

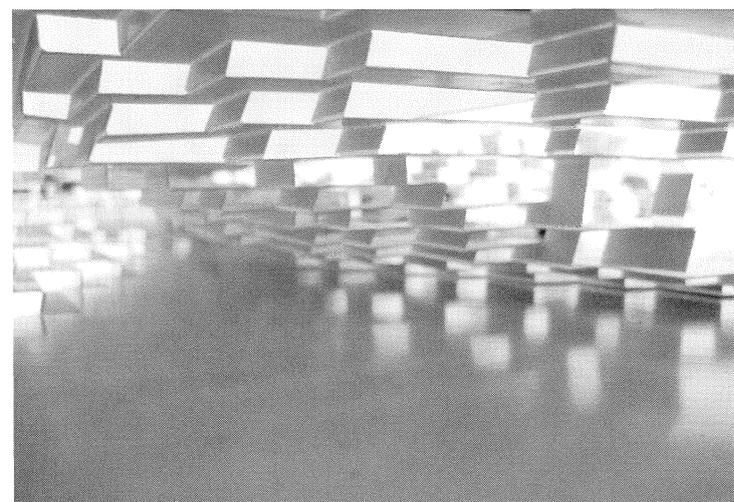
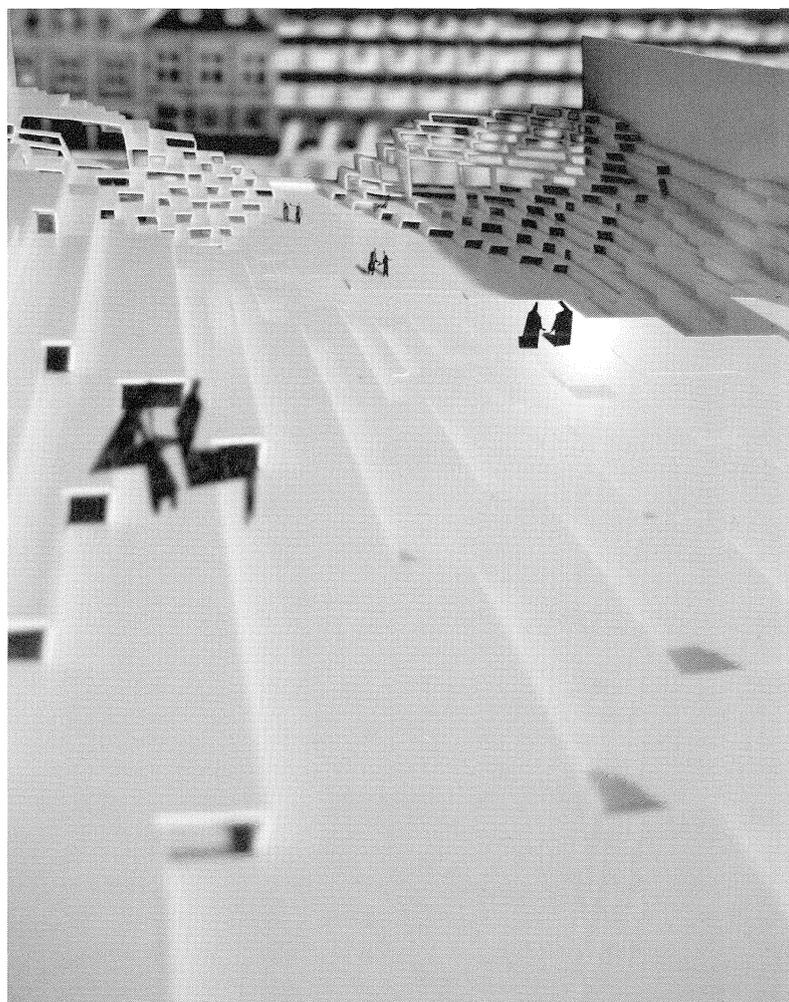
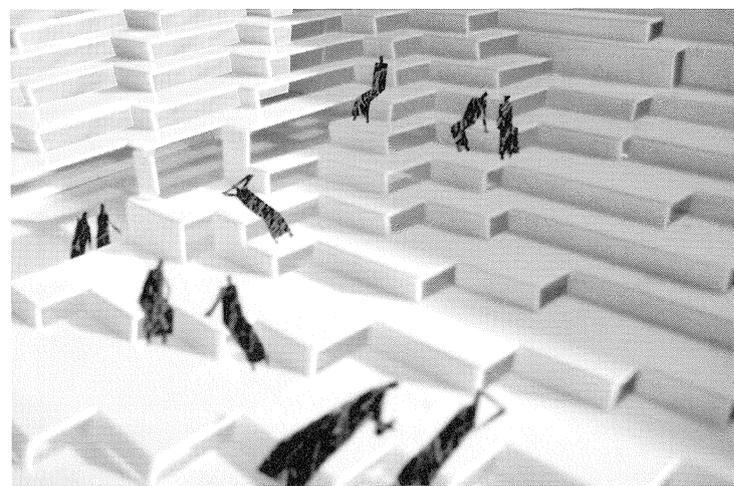


inner plate plan 1/2



elevation 1/200

+9000mm +6000mm +3000mm ground |



Vines - 蔓の建築 -
studio M
nao sakamoto

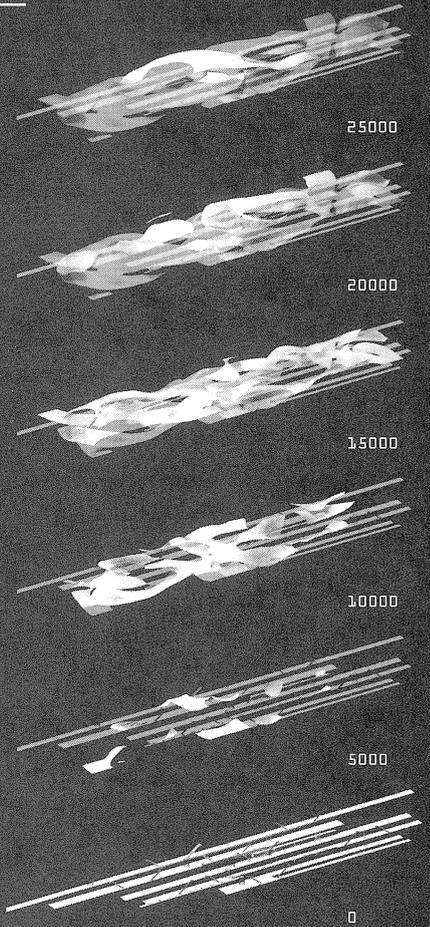
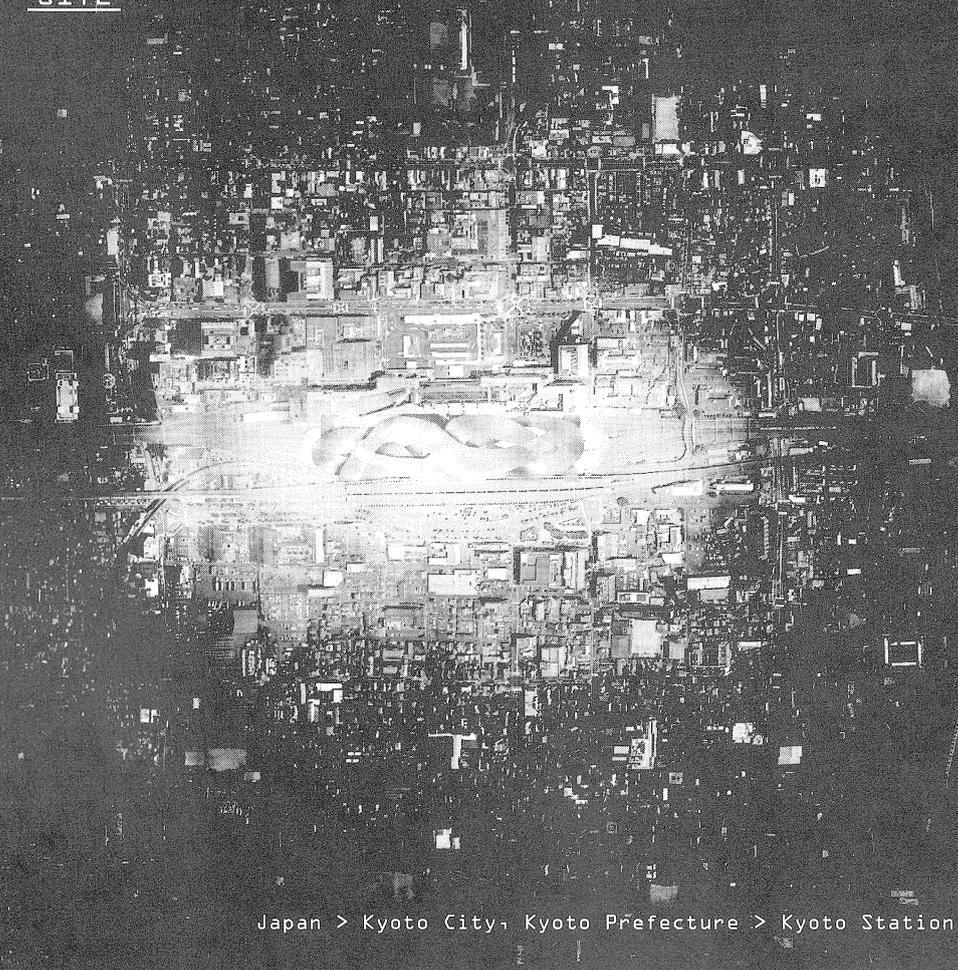
Around the OSAKA station, commercial and transportation center in western JAPAN, there are a number of commercial and office buildings, which are side-by-side, but totally unconnected with each other and thereby cut off pedestrian's flow. This design is proposing a new type of commercial and office building which creates smooth circulation and open spaces where people can promenade and rest there. This project begins by tilting columns, with which boundaries of buildings are broken into pieces. The architecture is freed from the domino system, and spreads in the urban environment like VINES.



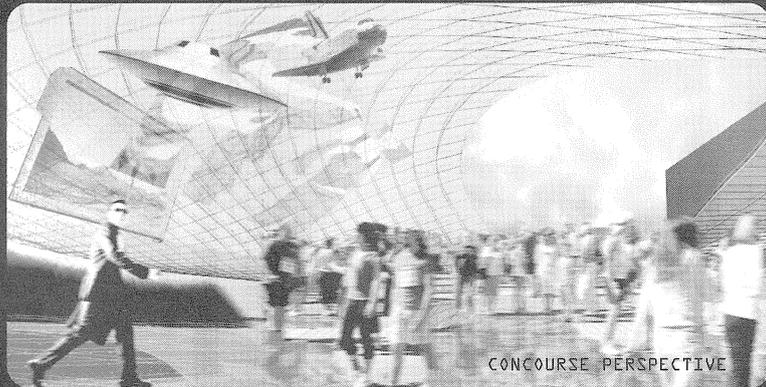
Expansion of Kyoto Station

SITE

PLAN



Japan > Kyoto City, Kyoto Prefecture > Kyoto Station



STRUCTURE DIAGRAM



PASSENGER SLAB

CONCOURSE SLAB



SURFACE STRUCTURE

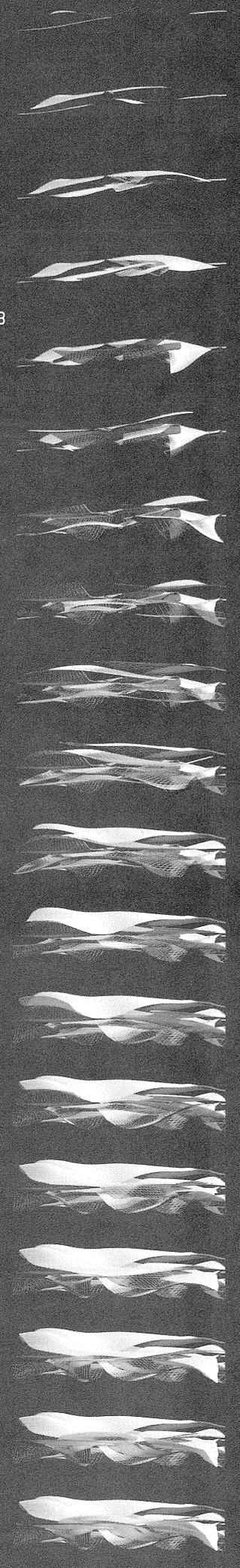
PLATFORM



Passenger meet Citizen, and they feel culture.
Citizen meet Passenger, and they are enlivened.



CONCOURSE PERSPECTIVE





1945年8月6日広島。

この建築はその日から建築ではなくなった。被爆建築として記憶を継承するためのモニュメントとなり、この街のこの場所で記憶を護ってきた。

長い年月が経ち、

構造が脆弱であるために取り壊しが決定し、その姿を留めることが出来なくなった。

この場所、この建築が重ねてきた歴史と忘れてはいけない出来事。

それを護るため、建築はここに横たわる。



壁を地面に横たえることによってかつての構造であった壁がその場所に重なる。
そうすることで、原爆の記憶の継起となっていたファサードと、
歴史を重ねた敷地が永久に保存され、重なり合う。
さらに地面と重なった壁のかつての開口からは新しい植物が育ち、
全体が新しい命の花壇となる。
建築としての機能を失われたものと人が生み出す新しい関係が生み出され、
場所と記憶は永久に受け継がれていく。

パフォーマンスの空間
竹山スタジオ

身体表現を伴うパフォーマンスの空間を考える。演じる側の使いやすさと観客の側の動線や楽しみには各々の論理があり、そして観る側と観られる側との関係には緊張と融合への欲求があるだろう。これを建築へとまとめあげていきたい。

「参道」と「スケッチ」を手がかりとし、京都の参道における場面とアクティビティをスケッチし、建築空間をつくる。

時間の中の風景と建築
宗本スタジオ

風化の始まり
どのような建築作品も生まれた瞬間から風化の被膜に覆われる宿命を持つ。風化の被膜は自然の汚れや風景の同化はいうに及ばず、視線に付着する被膜にどれだけ絶えられるか建築の耐性が常に験される。生きられる時間

誰も逃れることの出来なく平等に覆いかぶさる硬直化した時間のもとで、建築を考えるとき、建築設計では「時間」の問題をあいまいにしてきた。つまり、時間を拘束することで単一化し、その多様性を忘れ去ったのである。そこで、建築は部分に分解され、また再構築されるのである。この課題では、硬直化した時間とは異なる「時間」、たとえば「風化」「うつろい」「仮設」「不可視」など時間の様々な様相をキーワードに、場所や対象を自由に設定して、風景と建築を問い直す。

可能性

時間に新たな解釈と、表現を試みることによって、これまででない豊かな空間と表現の可能性に挑戦することが、主題である。

都市と建築
門内スタジオ

21世紀を迎えて、大量生産・大量消費を基調としたデザインが行き詰まり、環境や社会の制約条件などを考慮して、幅広い要求を質的に満足するデザインへの転換が求められている。そこでは、デザインを「人間と環境との関係に変化をもたらす」営みとして理解し、個々の人工物のデザインにとどまらず、人工物相互の関係や人工物と環境・人間との関係に配慮することにより、豊かな環境・社会システムをデザインすることが求められている。

都市の中の建築は、他の人工物や人間・環境とのネットワークを形成する結節点として存在する。このスタジオでは、「都市と建築」のダイナミックな関係に焦点を結び、歴史都市・京都（他の都市を選んでよい）から適当な場所を選定し、①ミクロな建築レベルの環境のデザインを通して、②マクロな都市レベルの環境をデザインする可能性を探求する。具体的には、都市空間に「魅力的な場所と風景を創発する新しいタイプの建築（の集合）」を提案する。